

平成 21 年 12 月 10 日

1 2 月定例所長会見における高橋所長挨拶内容

○ 所長の高橋でございます。本日、私からは 3 点申し上げます。

○ まずは、「1 号機と 5 号機の系統機能試験」についてです。

1 号機と 5 号機につきましては、機器単体レベルの基本点検がほぼ完了しており、現在、次の段階となる系統レベルの健全性確認を実施しております。これまでに、1 号機は 30 項目中 10 項目、5 号機は 28 項目中 16 項目の試験について評価が完了いたしました。

また、1 号機につきましては、本日までに燃料装荷前に実施する試験や関連する工事が完了する見込みです。今後、原子炉の安全機能として重要な「止める」機能を確認する系統機能試験を実施する必要があることから、12 月 12 日から 19 日までの予定で 1 号機の燃料装荷作業を実施する予定です。なお、これらの試験は、原子炉の蒸気を必要としないので、原子炉は停止状態であり、核分裂の連鎖反応は起きません。

当発電所といたしましては、今後も計画的に系統機能試験を実施し、その評価結果を国や県の委員会等に報告するとともに、定期的に進捗状況をお知らせしてまいります。

○ 2 点目は、「火災と人身災害の発生防止」についてです。

11 月 19 日に発生した 3 号機タービン建屋の天井クレーンブレーキ装置からの発火・発煙により、地域の皆さまへご心配をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

本火災に関する原因調査結果と再発防止対策につきましては、12 月 2 日に原子力安全・保安院、新潟県、柏崎市消防本部へ報告いたしました。その中で、今後の対応として、過去に処理した不適合報告書については、再発防止対策と水平展開が確実に実施されていることを再確認することとしております。この再確認作業につきましては、運転中のプラントである 6・7 号機から優先的に実施して

おり、運転上の問題はないとの調査結果を、12月4日に原子力安全・保安院ならびに新潟県へ報告いたしました。今後、残る1～5号機の調査を今年中を目処に完了させる予定です。

当発電所といたしましては、今回とりまとめた再発防止対策について着実に取り組み、協力企業とともに一丸となって、災害発生防止に努めてまいります。

○ 3点目は、「排水配管の接続状況に関する調査結果」についてです。

当発電所は、福島第二原子力発電所1号機において確認された排水配管の誤接続によるトリチウムを含む水の放出事象を踏まえ、同様な誤接続の有無を確認するための調査計画をとりまとめて徹底した調査を行うことといたしました。

この調査の過程において、1号機と5号機の排水配管計4カ所に誤接続を確認しましたが、これらによるトリチウムを含んだ水の放出について保守的に評価した結果、いずれも検出限界未満となり、法令で定める基準値を大きく下回ることから、外部への放射能の影響がないことを確認しております。

当発電所は、これらの調査結果をとりまとめて、12月7日に原子力安全・保安院ならびに新潟県へ報告いたしました。また、誤接続が確認された配管は、現在、使用できない措置を講じておりますが、今後、配管を改造して適切な系統に接続いたします。

○ 最後になりますが、当発電所では、今週の月曜日から約2週間の予定で、社員がご家庭を訪問し地域の方々の声をお聴きする「ふれあい訪問」活動を実施しております。この活動は、これまでも年2回行っており、今回で通算9回目となりますが、私自身も、これまでと同様「ふれあい訪問」活動に積極的に参加し、地域の皆さまからのご意見やご要望を直接お聴きしたいと考えております。

以 上

添付)

- ・ 柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX
- ・ プレス公表（運転保守状況）

柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成21年12月)

平成21年12月10日

① 発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況												補足説明
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
1号機 110万kW (S60.9.18運開)	第15回定期検査中 定検停止期間:H19.5.4~	第14回 H17.6.14~H18.5.30 停止期間 H17.6.14~ H18.4.30 (321日) (原子炉起動H18.4.26)	第15回定検による停止												
2号機 110万kW (H2.9.28運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H19.2.19~	第11回 H17.9.3~H18.5.9 停止期間 H17.9.3~ H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)	第12回定検による停止												
3号機 110万kW (H5.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H19.9.19~	第9回 H18.5.12~H18.9.15 停止期間 H18.5.12~ H18.7.27 (77日) (原子炉起動H18.7.24)	第10回定検による停止												
4号機 110万kW (H6.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H20.2.11~	第9回 H18.4.9~H19.1.11 停止期間 H18.4.9~ H18.12.14 (250日) (原子炉起動H18.12.11)	第10回定検による停止												
5号機 110万kW (H2.4.10運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H18.11.24~	第11回 H17.7.4~H17.11.2 停止期間 H17.7.4~ H17.10.8 (97日) (原子炉起動H17.10.8)	第12回定検による停止												
6号機 135.6万kW (H8.11.7運開)	第8回定期検査中 定検停止期間:H19.5.24~H21.8.31 現在調整運転中	第7回 H17.12.10~H18.5.12 停止期間 H17.12.10~ H18.4.13 (125日) (原子炉起動H18.4.10)	第8回定検による停止												
7号機 135.6万kW (H9.7.2運開)	第8回定期検査中 定検停止期間:H19.11.15~H21.5.20 H21.9.25~H21.11.10 現在調整運転中	第7回 H18.8.23~H19.1.11 停止期間 H18.8.23~ H18.12.5 (105日) (原子炉起動H18.12.2)	第8回定検による停止 燃料取り替えのため計画停止												

※プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

② 発電所設備利用率(%) (11月末現在)

11月	27.8%
21年度累計	15.6%
運転開始後累計	66.6%

③ 発電所発電電力量(万kWh) (11月末現在)

11月	164,343
21年度累計	748,531
運転開始後累計	80,940,367

④ ドラム缶発生量(本) (H21年度第2四半期)

当期発生本数	1,192
貯蔵庫累積貯蔵本数	26,504
貯蔵庫保管容量	45,000

⑤ 使用済燃料貯蔵体数(体) (H21年度第2四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	12,380
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

⑥ 構内従業員データ(人) (12月1日現在)

		東京電力	協力企業	比率
県内	柏崎市	851	2,958	40%
	刈羽村	85	319	4%
	その他	95	1,524	17%
	小計	1,031	4,801	61%
県外		116	3,620	39%
合計		1,147	8,421	—
			9,568	100%
協力企業社数(社)		951		

※「比率」について端数処理の関係で数値と計が含まない場合がある。

⑦ 来客情報(人) (11月末現在)

	11月	年度累計
地元	845	11,703
県内	1,474	11,343
県外	4,904	27,007
国外	39	328
合計	7,262	50,381

⑧ 今後の主なスケジュール

予定日	内容
12月7日~20日	ふれあい訪問
12月13日	ミュージックライブ アット カムフィー (カムフィー) 「一足早いクリスマスコンサート」AYAKO WITH REJOICING
12月17・18・19日	木の実のクリスマスツリーづくり 〔【柏崎会場】12月17・18日(柏崎エネルギーホール) 【刈羽会場】12月19日(き・な・せ)〕
12月26日	そばうち体験教室(き・な・せ)
1月14日	次回定例所長会見予定
1月21日	骨盤エクササイズをやりましょう(柏崎エネルギーホール)
1月21・22日	第138回名画鑑賞会(柏崎エネルギーホール)

インターネットホームページアドレス
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社
 柏崎刈羽原子力発電所
 広報部
 0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

平成21年12月10日
定例所長会見資料

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
①	10月19日	1号機	残留熱除去海水系配管からの海水の漏えいについて (区分Ⅲ)	<p>(事象の発生状況) 定期検査中の1号機において、平成21年10月17日午前9時41分頃、海水熱交換器建屋（非管理区域）1階の残留熱除去海水系配管から海水が7～8秒に1滴程度、床に滴下していることを、付近で作業をしていた協力企業作業員が確認しました。このため、漏えい箇所の調査を開始するとともに、午後4時50分頃、当該配管へ海水を流している残留熱除去系海水ポンプを停止し、漏えいは停止しました。その後、当該配管の周辺を覆っている保温材を取り外して漏えい箇所の調査をおこなったところ、10月18日午前10時頃、配管表面に直径約2mm程度の孔を確認しました。</p> <p>(安全性、外部への影響) 漏えいした海水は放射性物質を含んでおらず、本事象による外部への放射能の影響はありません。</p> <p>(対応状況) 当該配管の応急処置を行うとともに、漏えい確認を実施して異常のないことを確認しております。 原因を調査した結果、孔が開いた原因は、当該箇所の上流側近傍にオリフィスが設置されていることから、オリフィス下流部で流れの乱れが生じたために配管内面に施されているゴムライニングが損傷し、配管が海水にさらされて腐食したためと推定いたしました。 対策として、プラント起動前までに当該配管の取替を実施することといたします。 また、今後、類似箇所（海水系の配管であってオリフィス等の流量の絞り機構が設置されている箇所）の抽出を行い、順次点検を実施し、海水系配管における通常の保全計画への反映を検討いたします。</p>
②	10月20日	1号機	非常用取水路（屋外）におけるけが人の発生について (区分Ⅲ)	<p>(事象の発生状況) 平成21年10月20日午前5時10分頃、1号機非常用取水路の地盤改良工事に従事していた協力企業作業員が、ボーリングの準備作業として、ボーリングマシンの先端部を回転させてジョイント部へ仮止めする作業を行った際、回転防止のための送水管を取り付けていなかったため、ジョイント部がボーリングマシンの先端部と連動して回転してしまい、ボーリングマシン本体とジョイント部の間に左手親指先端をはさみ負傷しました。左手親指先端部より出血していたことから、業務車で作業員を病院に搬送しました。</p> <p>(対応状況) 病院での診察の結果、左手親指挫創（指先1cm程度の傷）と診断され、4針の縫合治療を受けました。</p> <p>原因を調査した結果、ジョイント部の交換中に送水管も取り外すという稀な状態において、追加のKY活動が行われていなかったことから、危険を抽出できず、作業員が送水管を取り付けていない状態でジョイント部を油圧モーターに取り付けようとしたため、と推定しました。 今後、対策として以下のことを行います。 ・当社は元請に対して、作業の途中で新たな事象が発生した場合には、必ず作業を中断して追加のKY活動を行い、安全確認を行ってから作業を開始するよう指導します。 ・元請は作業班長に対して、作業の途中で新たな事象が発生した場合には、必ず元請と協議するよう指導します。</p>

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

平成21年12月10日
定例所長会見資料

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
③	11月20日	5号機	タービン建屋におけるけが人の発生について (区分Ⅲ)	—